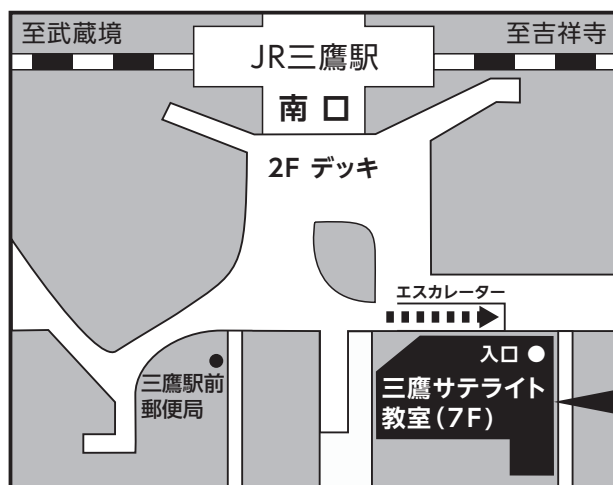


古典逍遙 源氏物語 「漣標」を読む

受講料 (振込額)	12,500円				
必携テキスト	新潮日本古典集成(新装版) 源氏物語三 [石田穰二・清水好子(校注) / 新潮社 / 定価: 2,640円(税込)]				
講座概要	曜 日	水曜日			日 程
	時 間	13:00～14:30			8月23日 9月6・20日 10月4・18日
	回 数	全5回	定 員	40名	
	開講場所	三鷹サテライト教室 7F / 大教室			
講 師	元本学教授 深澤 邦弘(ふかざわ くにひろ)				
	早稲田大学大学院文学研究科日本文学専攻修士課程修了、文学修士。都立三鷹高等学校、立川高等学校、昭和高等学校教諭 2006年3月武蔵野大学文学部教授退職。 専攻は中世文学・国語教育。著書に『平家物語における「生」』典社研究叢書170、 『青桐—もの一詞いはん—』編著 新典社(2014年4月)				
内 容	召還された年の神無月、源氏は桐壺院追善の法華八講を主催。翌春、朱雀帝譲位冷泉帝即位、東宮元服立坊、源氏も内大臣となり冷泉体制を一門で固めた。三月「かしこき筋にもなるべき」明石の姫君誕生、源氏は「よしある受領」達に命じ二条邸東院を改築。姫君の話を聞くも紫の上は「われはわれ」と思い沈む。藤壺准太上天皇に。八月、権中納言・兵部卿の姫入内の聞え、語り手は源氏の対応に気をもむ。源氏は御願果しに住吉神社へ、世の中ゆるするほどの美々しい一行を遠目にみた明石の方は、身の程を嘆き、上洛を促されるも姫君のゆく末も「数ならぬさま」と不安をつのらせる。斎宮帰京。発病、出家した六条御息所は斎宮のゆく末を「ことに触れて数まへ」と源氏に懇請し病没。源氏は朱雀院の前斎宮思慕を想いつつも藤壺に相談「かの御遺言をかこち」て「参らせよ」の言質を得て二条邸に斎宮を迎える。語り手は見聞するまに源氏・明石の方・紫の上の生きた声・生きた運命、ゆく末、時代相を感想批評を交えつつ紡ぐ。				
	① 8月23日:「漣標」を読む ② 9月6日:「漣標」を読む ③ 9月20日:「漣標」を読む ④ 10月4日:「漣標」を読む ⑤ 10月18日:「漣標」を読了				



武蔵野大学 三鷹サテライト教室



〒181-0013
東京都三鷹市下連雀3丁目26-12
三鷹三菱ビル

JR中央線・総武線
東京メトロ東西線
JR 三鷹駅 南口より徒歩1分

三鷹三菱ビル 7F
(三菱UFJ銀行のビル)

1F入口からお入りください

- 「受講の手引き」を必ずお読みの上、ご参加ください。